

第2学年 学級活動（1）指導案

令和3年7月7日（水）第5校時

第2学年1組34名

指導者 江橋 理恵子

「主体的に学びに向かう児童の育成」
～自分や友達のことを知り、わかり合える活動を通して～

1 議題

「クラス全員で協力して仲良くなり、‘みんながえがお’になる学級集会を計画しよう」

2 議題について

（1）児童の実態

本学級はクラス替えがなく、児童はほぼ毎日のようにどろけいや氷おになどの遊びをして関わり合っている。学級の係活動に意欲的に取り組む児童も多い。一方で、自分中心の考えで行動することで、遊びや活動の中で行き違いが起こることも多く、その度相手の立場に立って物事を考えることを練習している。学習においては、各教科の関わり合いの場面でペアを作ることや、相手に意見を伝えることに苦手意識がある児童もいる。

5月に学級目標を決め、その達成のためにどうすれば良いかを考え始めている。現在は、困っている友達のために自分から声を掛けたり動いたり、苦手な活動にも嫌がらずに取り組んだりするなど、具体的な行動に表れている児童を教師が価値付けして賞賛することで、それが自分や友達のよさとなるとともに、学級目標に繋がる行動だと分かり始めている段階である。児童自身がそうした行動を見付けて、互いに伝え合う場として帰りの会の時間を活用している。

（2）話し合い活動（学級会）

学級会については、上級生が学級会をしているところのビデオ撮影したものを、昨年10月に視聴して学級会の進め方や司会グループの役割を学んだ。学級会の目的や話し合いの原則を示し、一年生の間は議題を教師から提示してきた。4月からは学級目標を達成するために議題を一緒に考え始めた。司会グループは、司会（2名）、黒板記録（3名）、ノート記録（1名）の役割分担とし、その中から自分が挑戦してみたい役割を選び、じゃんけんで順番を決めて行っている。議題が決定すると、司会グループが集合し、役割分担の確認と掲示物の準備を始め、司会台本の音読練習をして、学級会を開くという手順を踏んでいる。

事前に学級会ノートに自分の意見とその理由を全員が書いていることで、全員が手を挙げて発表することはできるようになったが、全員に聞こえる声の大きさではなかったり、相手意識をもたずに読み上げていたり、発表の仕方に課題がある。毎回の学級会では、自分の意見を自分の言葉で伝える経験の場としていきたい。

自分たちのやりたいことを自分たちの意見で決めていく、またそれが結果として学級目標の達成につながっていくという経験を繰り返し、その中で自分が意見を出すことと友達の意見を聞くことのよさや、自分から関わっていくことの大切さに気付かせたい。それが本研究で児童に身に付けさせたい4

つの力に繋がり、主体的に学びに向かう児童の育成にも繋がると考える。

なお、これまでの学級会での議題と決まったことは次の通りである。

学級会の回数	月日	議題	決まったこと
(教師主導)	4月8日(木)	学級の係を決めよう	学級の係活動決定 子ども新聞係、読み聞かせ係、賞状係 お笑い係、なぞなぞ係
(教師主導)	5月6日(木)	学級目標を決めよう	学級目標決定「みんながえがお ～元気・きょう力・チャレンジ」
第1回	5月13日(木)	学級目標の「みんながえがお」になるために、転入生とクラスの友達が仲良く力を合わせる学級集会でやることを考えよう	教室内で「20のとびら」を行い、校庭遊びとしてどろけいを行う
(教師主導)	5月14日(金)	2年1組のキャラクターを考えよう	学級目標の思いを込めたキャラクターが「フレイフレイ白くまちゃん」に決まった。
第2回	5月27日(木)	1年生から6年生までみんなが楽しめる子どもまつりのお店をきめよう。	お店はボウリングかボールなげあそびをする。(2年2組の意見と合わせる。)
第3回	6月3日(木)	転校する友達とみんなが笑顔になって楽しい思い出に残る学級集会を計画しよう	教室を飾り付けする。手紙を書く。校庭での遊びは、かくれんぼとどろけいを行う。

(3) 議題選定の理由

過去2回の学級会は転入生や転校生という外的な要因により議題が決まってきたが、今回は学級目標の達成に近付くための学級集会を子供たちで考え、実行させる。

提案理由に沿った意見の発表や、決定の仕方を通して「みんなで決めたことは、みんなで実践する」という経験を積み上げていきたい。そして、自分達で決めたことを準備して実行し、振り返りを行うことで、これからの学級作りや行事にも生かしていきたい。

3 研究主題に迫るための手立て・工夫

【低学年ブロックで研究主題に迫るために、身に付けたい力】

本授業では、二重下線（自分の意見を友達に伝えることができる児童）を最も重視する力としている。
また、振り返り活動での自己評価や相互評価、個人のめあて設定により、下線部の力に繋げたい。

人間関係形成・ 社会形成能力 (つながる力)	自己理解・ 自己管理能力 (自分と向き合う力)	課題対応能力 (先を見通す力)	キャリアプランニン グ能力 (自分をつくる力)
① <u>自分の意見を友達に 伝えることができる児 童</u> ② <u>友達のよいところを 見つけ、仲良く助け合 う児童</u>	① <u>自分の良いところを 見つけることができる 児童</u> ② <u>不得意な事や苦手な 事でも進んで取り組 もうとする児童</u>	① <u>自分のことは自分 で行う児童</u> ② <u>分からないことを 質問したり、苦手なこ とを練習したりする 児童</u>	① <u>将来の夢や希望を もつことができる児 童</u> ② <u>好きなことを見つ け、楽しんで取り組 むことができる児童</u>

(1) 学級会の基本的な進め方についての繰り返しの指導

①議題の共有化

- ・金曜日の学級の時間を使って事前に議題、提案理由、話し合うことを掲示

②司会グループを全員が経験する。

- ・司会、黒板記録、ノート記録の内、自分が挑戦したい役割に立候補し、じゃんけんで順番を決めて行う。学級全員が年間の中で必ず何かの役割を経験する。

③司会グループへの事前指導

- ・活動計画の作成
- ・学級会グッズの活用(黒板表示、賛成・決定マーク、司会の表示等)

④学級会ノートの活用

- ・事前に自分の考えとその理由を記入

⑤ 振り返りの場の設定

- ・学級会ノートでの振り返り(自己評価、自分が頑張ったこと、友達のよかったところ)を記入し、発表し合う。(人間関係形成・社会形成能力―②、自己理解・管理能力―①)

⑥ 適切な終末の助言

- ・ねらいについての評価、司会グループへの賞賛、本時でよかった具体的な児童の賞賛、実践への意欲付け

(2) 「くらべ合う」時間の確保

学級会は、「出し合う」→「くらべ合う」→「まとめる(決める)」という流れで展開するが、三段階の中で最も時間をかえたいのが「くらべ合う」段階である。「くらべ合う」段階の時間をしっかり確保して合意形成を図るために、「出し合う」段階は学級会の事前に行っておき(教室内に掲示)、本時は、「くらべ合う」段階からスタートできるようにしておく。さらに、みんなが認識しているものについては、あらかじめ事前に了承を得て、「決まったこと」に入れておく。

(3) 一人一人の意見を大事にする工夫

決まらなかった意見を入れ、次回以降に生かせる「みらいのたねボックス」を設置することにより、通常の中休みの遊びで取り入れたり、週に一度のクラス全員の時間に生かしたりと、一人一人の意見を大事にする。

(4) 話し合いのめあての設定（自己理解・自己管理能力―②）

学級会の話し合いのめあてを、教師が提示しているが、話す・聞くことに関して得手不得手があるため、個人のめあてを設定することとした。自分のめあてが達成できたかどうかで満足感を味わわせるとともに、会を重ねるごとにめあてを発展させて設定できるようにすることで、自分の力（特に自己理解・自己管理能力）の高まりを感じられるようにしたい。基本の段階が学年末までに全員身に付けることを目標とする。

1 年生	基本	発展 1	発展 2
話す	自分の意見を言う	3 の声で言う	手を挙げて発表する
聞く	最後まで聞く	相手の方を見て聞く	

2 年生	基本	発展 1	発展 2
話す	手を挙げて発表する	理由をつけて発表する	相手を見ながら発表する
聞く	相手の方を見て聞く	姿勢を正して相手の方を見て聞く	相手の話に反応する（うなずく、拍手するなど）

(5) 失敗を恐れずに発言できる工夫

挙手して発言する際に、声をなかなか大きくすることができない児童に対しては、①教師と一緒に言う、②友達が一緒に言う、③聞こえなかったところだけ友達が補う、などの方法を段階を追って試しながら徐々に大きな声で言える環境づくりをしている。また、言いたいことがなかなか伝わらず、発言がうまくいかなかったとしても、どういうことを言いたかったのか気持ち分かる児童が追加したり代弁したりするなどして、お互いに助け合いながら発言できるようにしている。

(6) 日常や他教科での取り組み

○話す・聞く活動

学習の際、スムーズにペア学習を始められるよう意図的に座席を配置している。自分でペアを見付ける活動も経験として取り入れている。その際いつも同じペアにならないように、ペア決めの条件を加え、関わりが広がるように促している。

○きらりさん発表

帰りの会で、一日の中で友達ががんばっていたことや人のためにすすんで行動したこと等を、「今日のきらりさん」として発表している。お互いの頑張りやよさを認め合うことで、クラスでの居場所

作りや円滑な人間関係の育成ができるようにしている。きらりさんが発表されると、係の児童が名前の挙がった児童の名前磁石の色を変え、特定の児童のみが発表されるのではなく、全員が発表されるようにしている。

○他教科との関連

【学習指導要領より】

〈国語科〉

(1) 話すこと・聞くことに関する指導

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと
- イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること
- ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること
- エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと
- オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと

(2) 次のような言語活動を通して指導するものとする

- ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動
- イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動

〈特別活動〉

話合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること

以上から、低学年の発達段階として、国語科ではペアやトリオでの少人数での話合い活動を取り入れながら、良い話し方と良い聞き方、話型の指導をする。その上で学級会にて話合いの進め方を知り、合意形成して実践する経験をさせていく。

○行事との関連

子どもまつり、運動会、展覧会などの学校行事において、学級目標を意識させながら取り組むこととする。友達と一緒に力を合わせて取り組む楽しさやよさを感じながら、達成感や満足感を味わう実践の積み重ねを自己有用感の高まりに繋げたい。

4 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への主体的な態度	集団の一員としての思考判断実践	集団活動や生活についての知識理解
学校生活に関心をもち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。	議題について自分の考えをもち、話合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。	話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。

5 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
6月30日(水) 業間の時間 昼休み	議題を選定する。 議題を全員に伝える。 司会グループの役割分担を決める。 全自分の考えをノートに書く。	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。 ・みんなが納得、理解できるような提案理由になるように、提案者も含めて提案理由を練る。 ・学級会全体の見通しがもてるようにする。	【知識・技能】 話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解し、準備している。(観察) 【思考・判断・表現】 話し合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。(観察) 【主体的な態度】 学校生活に関心をもち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。(観察・ワークシート)
7月1日(木) 業間の時間	集めた学級会ノートを確認し、短冊にする。	・全員の意見を踏まえて、話し合いの見通しをもてるようにする。	【思考・判断・表現】 議題について自分の考えをもっている。(ワークシート)
7月2日(金)～ 業間の時間	活動計画を立てる。 話し合いの想定をする。 全出された意見に対する自分の考えをノートに書く。	・全員の意見を踏まえて、話し合いの見通しをもてるようにする。 ・本番の話し合いの流れを想定し、意見が出なかったときや、決めるのが難しかったときの進め方を考えられるようにする。	【知識・技能】 基本的な進め方を理解し準備することができる。(観察)
7月7日(水) 朝	今日の流れを確認する。板書や道具の準備をする。	・本番の想定ができるようにする。	

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

話合いの進め方に沿って自分の意見を発表したり、友達の意見をよく聞いたりしながら、遊びややりたいことを考える。

(2) 児童の活動計画

別紙参照

(3) 教師の指導計画

児童の活動	指導上の留意点 ☆キャリア教育の視点	★目指す児童の姿と評価方法 ☆キャリア教育で身に付ける力
1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 話し合うことの確認 8 話合い 柱①「学級目標や提案理由に沿った遊びの工夫を考えよう」	○提案理由について、意識できるようにする。 日時：7月19日(月) 4時間目 場所：教室・体育館・校庭のどれか ☆聞き手に伝わるように、自分の考えと理由を話す。 ☆友達の考えを頷いたり返事をしたりしながら聞く。 ○話合いの記録をとり、活動を見守る。 ※以下の時は、指導する。 ・生活指導上、人権問題のあるとき。 ・自治的範囲を超えたとき。 ・ねらいから大きくそれたとき。 ・話合いが混乱したとき。 ・規律が乱れたとき。 ・発言者が聞き手を意識できていないとき。	【主体的な態度】 ★司会グループの自分の仕事や話合いに積極的に取り組んでいる。(観察) 【思考・判断・表現】 ★提案理由に沿った発言をすることができる。(観察) ☆人間関係形成・社会形成能力―① ★友達の意見を最後まで聞くことができる。(観察) 【知識・理解】 ★話合いの流れを理解し、話合いに参加している。(観察)
9 決まったことの確認	○司会グループが話合いを進めるのに困っているときには、全体に声をかけて、進め方の提案を引き出す。 ☆出てきた考えをまとめ、集団決定する。	
10 振り返り	○児童による相互評価を行う。	★自分や友達の良かったところを見つけ、記入することができる。(学級会ノート)
11 先生の話	○記録をもとに、終末の助言をする。	
12 終わりの言葉	○実践への意欲付けをする。	☆人間関係形成・社会形成能力―②、自己理解・管理能力―①

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
7月12日(月)	役割分担を決める。(司会、始めと終わりの言葉、プログラム、ルール説明と準備など)	
7月12日(月) ～17日(金)	係ごとに、準備を進める。	・各係のやることと進捗状況がわかるように係の連絡ボードに、各係が書き込めるようにする。 ・必要に応じて、打ち合わせをする。
7月19日(月)	学級集会の実施と実施後の振り返り。	・実施前に、提案理由の確認をして、児童が意識して活動できるようにする。 ・実施後には、提案理由と決まったことに沿って振り返るように声をかける。

<低学年分科会> 授業を見ていただく視点

- ① 振り返りと先生の話(終末の助言)の順番を入れ替えたことは、自己管理能力(①自分の良いところを見つけることができる児童)と、人間関係形成・社会形成能力(②友達のよいところを見つけ、仲良く助け合う児童)に有効だったか。
- ② 個人のめあてを設定したことは、自己管理能力(②不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとする児童)に有効であったか。
- ③ 学級会の中に、児童の主体的な姿があったか。